

平成27年1月9日

魚沼市議会議長 浅井守雄様

総合計画特別委員会

委員長 本田 篤

総合計画特別委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 第二次魚沼市総合計画について
(2) その他

- 2 調査の経過 1月9日に委員会を開催し、上記案件について調査を行った。
第二次魚沼市総合計画の進捗状況等について、執行部より説明を受け質疑を行った。また、第二次魚沼市総合計画基本構想原案(素案)について休憩中に自由討議を行った。

総合計画特別委員会議録

1 調査事件

(1) 第二次魚沼市総合計画について

(2) その他

2 日 時 平成27年1月9日 午後1時30分

3 場 所 広神庁舎 3階 議場

4 出席委員 大平恭児、富永三千敏、岩井富士夫、志田 貢、佐藤敏雄、大平栄治、
遠藤徳一、渡辺一美、佐藤 肇、関矢孝夫、高野甲子雄、星 吉寛、
下村浩延、本田 篤、森島守人、森山英敏、大屋角政、星野武男、
(浅井守雄議長)

5 欠席委員 岡部計夫

6 説明員 酒井企画政策課長

7 書 記 小幡議会事務局長、富永副参事

8 経 過

開 会 (13:30)

本田委員長 定足数に達していますのでただいまから総合計画特別委員会を開会します。これより議事に入ります。

(1) 第二次魚沼市総合計画について

本田委員長 日程第1、第二次魚沼市総合計画についてを議題とします。本日の委員会の進行方法ですが、最初に執行部から前回の委員会以後の動きということで報告を求めたいと思っています。またその後に皆さんから宿題という形でお願いしてありました基本構想について皆さんから意見を出していただきたいと思っています。第二次総合計画の基本構想策定についてその後の進捗状況等について執行部より報告を求めます。

酒井企画政策課長 その後の進捗状況等についての前に、本日、まちづくり未来会議の会議報告書ということで第5回分まで配布させていただいています。第1回目をご覧くださいますと1ページから6ページまでは7ページ以降の分をコンサル及び事務局でまとめた集約した意見ということで記載しています。それ以降のところにつきましてはそれぞれ各分野ごとに付箋にメモをしてつけたものを、そのとおり文字としてここに残したものです。

以下第2回から5回までありますが、同じような形で出た意見については記載をし、それをまとめた形として集約しているということで、報告させていただきます。なお、誰がどんなことを細かく言ったというところまでの会議録はつくっていませんので、これが会議録ということでご覧いただきたいと思います。その後の進捗状況ですが、12月18日、19日、2回に分けまちづくり未来会議第6回を開催しました。ちょうど17日、18日と豪雪になり、そのせいか出席者は少ないものでした。12月18日は「健康・福祉」、「教育・文化」、「市民協働・自治体運営」という3分野、19日は「産業」、「生活基盤」、「環境衛生・自然」という3分野で分かれて話をしました。18日は市民が17名、19日が21人という状況の中での会議となりました。第6回から基本計画の検討に入りました。このときはこういった形で基本計画をつくっていくかという話と、それに関するそれぞれの委員からの意見やキーワードを出してもらったところです。どういう形でつくり込んでいくかについては、1月のまちづくり未来会議からやっつけようということにしています。これに合わせて市の新総合計画策定本部会議、新総合計画策定委員会においても、基本計画を進めるにあたり、どういう方針で進めていくか等を検討して、1月のまちづくり未来会議に向かうというところまで進んでいます。基本的には1月、2月、3月に計3回のまちづくり未来会議を予定していますが、この間で基本計画の原案をまとめたいということで進めています。

本田委員長　　ここまでで皆さんから質疑等はありませんか。(なし) ないようでしたら次に入りたいと思います。第二次魚沼市総合計画基本構想原案(素案)についてということで、先般まちづくり未来会議資料等も出てきました。これについて皆さんからの意見、提言等をいただきたいと思います。皆さんが用意された意見がどこにあてはまるのかも含めながら発言をお願いしたいと思いますし、また総論をいう形でも持っていくので、重複している部分とか若干外れている部分というようなところも発言の場を確保していきたいと思っています。なお議員間討議ということでさせていただきますので休憩という形になるかと思いますが、皆さんが発言されたことについて、私の方でまとめて、要約したものを後日提出して資料にしたいと考えています。それではしばらくの間休憩いたします。

休　　憩 (13 : 37)

休憩中に委員間の自由討議。意見の概要については、別紙(まちづくり未来会議作成の「第二次魚沼市総合計画基本構想 原案(素案)」に対する項目別の主な意見)のとおり

再　　開 (15 : 31)

本田委員長　　休憩を解き会議を再開します。今ほど委員間の自由討議ということで意見交換がありました。本日の意見交換で終わりではありませんし、またこういった委員会を開き、発言の場を約束しますので、本日は以上としたいと思います。休憩中の委員間の自由討議については、要旨ということで私のほうでまとめていきたいと思っていますし、それを次回提出します。さらに様々な報告書あるいは執行部から新たな資料も出てくると思いますので、それらを含めて、この基本構想についてより一歩踏み込んだ意見交換ができればと思っています。これで日程第1を終了します。

(2) その他

本田委員長 日程第2、その他を議題とします。委員の皆さんから意見、協議事項等はありませんか。(なし) それでは本日の会議録については委員長に一任願います。本日の総合計画特別委員会はこれにて閉会します。

閉 会 (15 : 32)

まちづくり未来会議作成の「第二次魚沼市総合計画基本構想
原案(素案)」に対する項目別の主な意見(平成26年1月9日)

第二次魚沼市総合計画基本構想原案(素案)

主な意見		備考
第1編 序論		
第1章 計画の趣旨		
第1節 本市をめぐる状況		
	地域創生ということで長期ビジョンと総合戦略つくることになっていると思うが、それとの整合性を取りながら、つくって行くのが良いと考える。	
	今まで以上に自己決定、自己改革が求められ、自治体から提案がなければ、予算もつけないというのが国の基本的な地方創生の考え方だと思う。地方交付税が低減する中で、今後の10年間の魚沼市の総合計画を立てなければならないので、その厳しさをしっかり自覚した上でつくらなければならない。	
	本市をめぐる状況は確かに厳しい状況ではあると受け止められるが、国の人口ビジョンとか、地方創生の総合戦略について序論の中で盛り込まれるべきではないかと思う。	
	未来が明るく感じられるような序論であってほしい。	
	地域の政策として企業を受け入れる体勢を今後どうしていくのかといったことを序論の中に盛り込んだ方がよいと思う。	
	今、国には、知恵や汗を出した所には真剣に予算を配分するという方向の地方創生、あるいは人口を集約して人口ダムを作りながら、周辺集落を引っ張っていくというような力強い方針があるが、それについて、向こう10年絵になるような序論のあり方もよいと思う。	
	魚沼市を明るい方向に持っていくには何が必要なのかということ、行政も当然だが、議員も出していかなくてはいけないと思う。	
	合併から10年が経過した中で、市民の一体感がまだまだ不足していると思うので、市民の一体感の醸成に向けた考え方を入れてほしい。	
	これからの総合戦略の基本目標として国が掲げている安定した雇用の創出、人の流れの転換、結婚出産子育ての希望実現、地域にあった地域づくりの4つの柱が出てきた方がよいと思う。	
第2節 総合計画策定の必要性		
	意見なし	
第2章 計画の役割		
	意見なし	
第3章 計画の構成と期間		
	意見なし	
第4章 策定にあたって		
	地方交付税は縮減されるとあるが、ここに地方創生の意義などの文言が加味されてくるべきではないか考える。	
	行財政改革の推進とともに、既成概念に捉われないとあるが、ここは段階的に縮減されるので行財政改革の推進とともにというよりも、もっと積極的な地方創生のあり方をきちんと捉えて、既成概念に捉われない政策と戦略性が求められるというようにした方が前向きに感じられるのではないかと。	
第1節 基本方針		
1 人口減少や人口構造の変化に対応して		
	基本方針に「若者の定着を目指すための安定した雇用」という文言を入れ、定住環境だけではなく安定した雇用の整備に努める内容にしてほしい。	
	魚沼市として人口を減少させないための政策が必要なので、交流人口の増大だけではなく出生率の増加とか、そういった文言がほしい。	

主な意見	備考
2 地域資源を活用した「魚沼創生」へ	
産業を興し、雇用機会を創出するとあるが、今後、人口減少と高齢化が進むが、雇用の場がないのではなくて、あるけれども人材が来ないというのが魚沼市の実情ではないかと思う。この辺については創生ということで明るい未来への方向性をしっかり出す必要性があるのではないか。	
地方の資源を活かし、地方に人が戻ってくるというような文言が地域資源を活用した魚沼創生への中に入ってもいいのではないか。	
人口がこちらに来るための創生をしたいというような文言がほしい。	
3 コミュニティの充実・強化を踏まえて	
コミュニティの充実の中に女性の力とか高齢者の力とかを入れることによって、その方たちに意識付けができるのではないか。	
第2編 基本構想	
第1章 魚沼市の将来像	
第1節 まちづくりの基本理念	
意見なし	
第2節 魚沼市の将来像	
意見なし	
第3節 主要な施策	
意見なし	
第4節 土地利用の方針	
庁舎との整合性という文言も盛り込んでどうか。	
庁舎という起爆剤を打ち込むのだから、ゾーニングが変わらない方がおかしい。積極的な土地利用とはいえないと思う。	
無秩序な開発を防ぐためには線引きをして市街化調整区域を定めていくということや、コンパクトシティ的な考え方を盛り込む必要があるのではないか。	
田や山など第1次産業の用地も含めてのゾーニングに盛り込むべきだ。	
第2章 施策の大綱	
地方創生の考え方のメインテーマがこの大綱の中でわかるようにしていくことが必要ではないかと思う。	
自給自足、地産地消を基本にまちづくりをするために、市民が食のあり方も含めて生活様式を変えるくらいの意識を持たせることが必要ではないか。「地産地消の推進」や「内需向きの経済志向」という文言を入れてほしい。	
雪のくにのまちづくりを掲げ続けるべきだと思う。「雪」という文言を入れてほしい。	
「人が集い、学び、支え合うまち 魚沼」という文言はネガティブで内向きな感じがする。「人と四季がかがやく 雪のくに」のような明るい表現にし、外に広げて発信し魚沼市をつくっていくようなキャッチフレーズがほしい。	
いくらアピールしても地域の市民が楽しくなければ、発信力は弱いと思う。市民を巻き込んだ形の総合計画にしていくためにもネーミングは大事だと思う。	
これだけの施策をやるには当然、財源が必要になってくるが、冒頭では、財源が厳しいとあり、非常に矛盾を感じる。自主財源などをどう生み出していくのか盛り込んだ方がいいと思う。	
「人が集い、学び、支え合うまち 魚沼」の「支え合うまち」を「かがやく 雪のくに」とすれば、イメージが変わってくるのではないか。	
未来の展望が明るくなるようなキャッチフレーズが必要ではないか。	

主な意見	備考
第1節 生活基盤	
生活基盤には、道路やライフラインだけではなくて、働く場、住居、教育、そして人がいてこそその地域というようなことも含めて生活基盤だという捉え方をしてほしい。	
ゆとりの部分も必要なので、生きがいや、快適な暮らしを求める憩いの場だとか文化事業といったものを盛り込んでほしい。	
第2節 環境衛生・自然	
自然エネルギーの活用について、持続性な資源の調達コスト等からすると木質エネルギーでの発電については疑問が残るので、しっかりとした検討が必要ではないか。	
豊かな自然の保全と育成について、もっと積極的に自然環境を守るための努力をする文言を入れるべきと思う。また、後世まで引き継いでいくとあるが、この計画の中で今より自然環境が良くなるような文言が必要だと思う。	
第3節 健康・福祉	
健康・福祉の中に女性の活躍推進や女性の健康を守るとかの文言があっただけでいいと思うし、施策の大綱では、6つにくくられていたが、女性と子育ては、女性の活躍、女性の健康、あるいは子育て、そして子供たちをどういうふうに育てるとか、子供の教育とかというところで別立てがいいと思う。	
「地域全体で支える環境を整える」とあるが、行政もしっかりと支えるということから、「まち全体で支える環境を整える」とした方がいいのではないか。	
昔と今では子育ての環境は全く違うので、そこを理解しないと子育て支援はできないと思う。	
第4節 産業	
地域資源をどうやって利用していくのかという部分をものづくりにつなげていくために、この中に「ものづくり」という項目を入れてほしいと思う。	
商工と観光がいっしょに語られるより一つ一つどうするかという話がきちんとあった方がいいと思う。	
商工観光業の競争力強化とあるが、大企業には勝てないわけだから、競争力強化という文言ではなく共感が得られるような文言にしてほしいと思う。女性の共感力、あるいは調整力とか、そういった連携をしながらの商業、観光の発展を目指した方がいいのではないか。	
競争を前面に出すよりは農林業の振興のように、活性化あるいは発信力を高めるなどの文言にしてはどうか。	
魅力ある農林業の振興の中で、担い手だけに集積をするのではなく、全農家を対象にした施策を進めていかなければならないと思う。	
企業誘致について、福祉も含め色々な分野の中から色々な産業をつくっていくんだということがわかるような文言にしてはどうかと思う。	
第5節 教育・文化	
公民館が地域のコミュニティ等と一緒に事業をやっていくというような形の表現ができないか。基本目標の中に、いろんな事業を進める中で連携して取り組んでいくという方向性で入れてはどうか。	
乳幼児期の教育の充実に関して、親も含めた教育が必要だと思う。	

主な意見		備考
第6節 市民協働・自治体運営		
	住民1人1人のサポート役である自治体運営だということがわかるような文言がほしい。	
	選択と集中だけでなく、自ら予算を獲得し施策の実現のために全力を尽くすことが必要だと思う。国や県の補助金や県の補助金も含めて、自主財源をどう生み出していくのかといったところも含めて、市民の知恵を集めてやっていく必要があると思う。	
	財政が逼迫してくる中で全部の事業への予算配分が厳しいことはわかるが、やはり計画なので広くいろいろな分野に力を入れていけるような、表現の方がいいと思う。	
	自主財源、財源収入では交流人口の拡大や物的な交流等が必要だし、そういったことが序論などの部分で伝わらないと厳しいと思う。	
	いろいろな施策を実施するには必ず財源が必要だということを、お互いにしっかり認識しなければならない。	
その他		
	コシヒカリや水も含めて魚沼はやはり食だと思うので、食育のことやと魚沼にある食材や料理について入れてほしい。	